

# 「参画と協働関連施策の5カ年の報告」中間とりまとめの概要

《目的》 「県民の参画と協働の推進に関する条例」に基づく施策を総合的に推進するための「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」(期間：平成 18～22 年度)の見直しにあたり、参画と協働による県政の現状を明らかにする。

《調査》 ・無作為抽出した県民へのアンケート(標本数 5,000) 10 月末集計速報とりまとめ  
 ・活動している県民へのアンケート(回答数 1,616) 地域団体、パワーアップ事業提案団体等  
 ・県民ボランティア活動実態調査(回答数 2,206) NPO 法人を含む  
 ・参画と協働に関する県職員意識実態調査(回答数 2,063)  
 ・県内市町意見の聴取

## 施策の推進状況

### (1) 地域づくり活動の支援

新たな活動を生み、支える

- ・地域づくり活動登録制度(コラボネット): 22 年 3 月末 11,643 件

活動を高め、支える

- ・県民交流広場事業: 523 小学校区(21 年度まで)

活動をつなぎ、拡げる

- ・地域づくり活動応援(パワーアップ)事業: 21 年度助成 256 件
- ・子育て応援ネット: 子育て家庭応援推進員 22 年 3 月末 1,648 人(全小学校区)

### (2) 県行政への参画・協働の推進

県民と情報を共有する

- ・食品品質表示の啓発及び指導: 21 年度食品表示ウォッチャー 640 人

県民と知恵を出し合う

- ・県民意見提出手続(パブリック・コメント手続): 21 年度意見 773 件

県民と力を合わせる

- ・推進員等の活動への支援: 22 年度 31,441 人

### < 県政推進プログラム 100 >

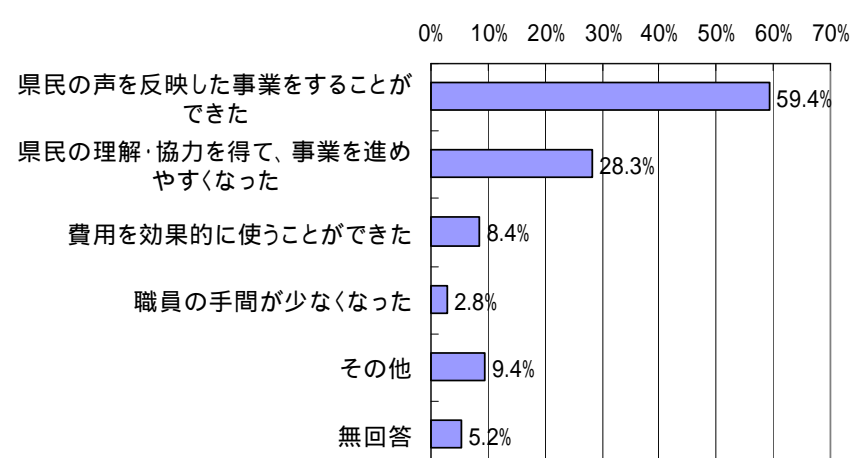
21 年度の状況

・「できた」「ほぼできた」

ともに知る	96.5%
ともに考える	95.8%
ともに取り組む	96.4%
ともに確かめる	91.3%

・前回(19 年度)の評価結果と比較して、「できた」の数値が 20% 前後上昇

### < 県職員の意識 = 参画と協働手法の導入成果 = >



## 県民の意識と実態

### 地域づくり活動の状況

条例施行以降に地域づくり活動を開始した県民が約半数

「条例以降活動しやすくなった」約 4 割

### 活動者の状況

活動者の継続的確保が困難、新規参加は口コミ主体

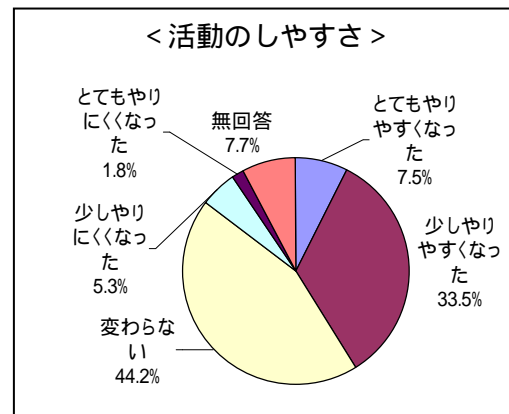
世代交代の遅れ、能力向上、リーダー支援体制等が課題

### 行政の支援策

支援情報の入手先は加入団体や相談窓口の提供が主体

資金確保のほか、支援策や活動ノウハウ等の情報提供が必要

参加の普及啓発、連携促進等の行政のコーディネートが求められている



### 参画と協働の最近の動き

#### 企業の社会貢献活動

- ・兵庫県子育て応援協定等の締結
- 21 年台風第 9 号災害ボランティア
- ・延べ活動者数約 19,000 人



### < 県内における各分野での活動事例 >

高齢者支援	外出や旅を通じた生きがいづくりを支援
子育て支援	お父さん・お母さんの子育て・親育ちを応援
世代間交流	地域の世代間ふれあい交流の場づくり
まちづくり	国内最大級の恐竜を活かしたまちづくり
スポーツ振興	「スポーツ指数のたかいまち」の地域づくり
環境学習	子どもたちは五感で自然を体感
地域安全	地域の防災・防犯啓発と住民協力の体制づくり
情報化社会	ミニ新聞によるまちづくり
経済活性化	地域の特産品を活用した地域おこし
都市農村交流	「食」を通じた多世代、都市農村の交流の場

### 市町の状況

12 市町で条例を制定

14 市町にボランティア活動支援機関

#### 市町意見

- ・住民を中心とした県と市町の意見交換要
- ・役割分担のうえでの連携

### 取り巻く状況の変化

県の人口減少の始まりと人口の偏在化

都市部における高齢者の急激な増加

単身世帯増加等の家庭の変化

地域に対する思いの薄れ

社会貢献意識の高まり

## 明らかになった課題

### 情報提供

- ・支援情報の周知
- ・活動ノウハウの提供

### 担い手の育成

- ・新たな人材の掘り起こし
- ・企業、大学等との協働

### 活動の連携

- ・連携の場づくり
- ・中間支援機能強化

### 支援のあり方

- ・財政基盤
- ・事務手続きの改善

### 公民協働のあり方

- ・幅広い県民の意見反映
- ・県民の主体性の育み

### 市町との役割分担

- ・方向性の共有
- ・地域特性の配慮

### 県職員の意識

- ・認識の強化
- ・職員の活動参加